

研究テーマ 「日米の大学の一般教育カリキュラム改革の比較研究」

本研究は次の4名の研究体制によって遂行された。

赤尾勝己（研究代表者：文学部教授） 陶 徳民（文学部教授）
田中俊也（文学部教授） 山住勝広（文学部助教授）
(2004年3月31日現在)

まえがき

表記の研究テーマについて、ここに順を追って研究成果を公表することにした。まず、赤尾論文「アメリカの研究大学における教養教育の改革—ハーバード大学への訪問調査を手がかりに—」では、2003年9月に、陶教授とハーバード大学へ訪問調査を行い、同大学の教養教育改革の責任者であるボル(Peter Bol)教授へのインタビューを中心に、ハーバード大学における教養教育改革が日本の私立大学へ示唆するものについて論じた。続く陶論文「アメリカの教養教育の新しいビジョン—2003年4月イエール大学報告書から—」は、赤尾とともに訪問したイエール大学でのゴードン(Joseph W. Gordon)副学長へのインタビューを交えながら、イエール大学における教養教育改革が確実に進みつつあることを示している。

さらに、田中論文「アメリカの高等教育におけるe-ラーニングと遠隔学習—カーネギーメロン大学西海岸校、スタンフォード大学の実践から学ぶ—」は、両大学のe-ラーニングの実態を探りつつ、日本の大学でのその可能性に言及したものである。将来的に、大学教育をより柔軟にデザインしていくうえで有益であると思われる。最後に、山住論文「大学教育と連携した子どもの放課後教育プログラム—ハイブリッド・システムの活動理論的分析—」は、カリフォ

ルニア大学サンディエゴ校へ、大学生の放課後プログラムについての訪問調査を基に書かれた。これは本学における高・大連携や学校インターンシップとも関連があり、大学の地域貢献のあり方を考察するうえで示唆的な研究である。

折しも、2004年12月1日、関西大学ではFDフォーラムにおいて、202名の参加者を集めて、学長からの「教養改革を主とした学部教育改革についての諮問」の別添資料についての説明が行われ、これから教養教育改革が本格的に進められていくことが示された。私たちのこの共同研究が、これからの関西大学の教養教育のあり方について考えていくうえでの一素材ともなれば幸いである。最後に、私たち4名は、各々の持味を生かしながら、絶妙のチームワークで研究が行われたことを報告したい。各論文のあらましについては、2004年3月6日に本学尚文館で開催された研究報告会において既に示されている。